



基本領域 内科専門研修

基幹

- 公立豊岡病院内科専門研修プログラム

連携

- 京都大学医学部附属病院内科専門医研修プログラム
- 国立病院機構京都医療センター内科専門研修プログラム
- 京都桂病院内科専門研修プログラム
- 近畿大学内科専門研修プログラム
- 北野病院内科専門研修プログラム
- 大阪赤十字病院内科専門研修プログラム
- 大阪府済生会中津病院内科専門研修プログラム
- 大阪市立総合医療センター内科プログラム
- 神戸大学医学部附属病院内科専門研修プログラム
- 兵庫医科大学病院内科専門研修プログラム
- 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム
- 兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム
- 県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム
- 神鋼記念病院内科専門研修プログラム
- 医療法人川崎病院新専医制度内科領域プログラム
- 済生会兵庫県病院内科専門研修プログラム
- 天理よろづ相談所病院 内科専門医研修プログラム
- 日本赤十字社和歌山医療センター内科専門医研修プログラム

総合診療科

1. 総合診療科の理念・特色

- ・日本版 Hospitalist を目指す。
- ・全人的医療マインドを持った医師を目指す。
- ・国民が真に必要としている医師を育成する。

公立豊岡病院は兵庫県北部(但馬地方)の基幹病院であり、その医療圏は但馬地方のみならず、京都府北部(丹後地方)にも及んでいる。他院からの紹介患者、救急患者も多く、様々な症例を多く経験することができる環境に恵まれている。総合診療科の患者は複数の疾患を合併していることが多く、様々な社会的背景も持っており、そのような症例を経験することで、患者を全人的にとらえ、広い視野を持った医師になることを目指している。また、エビデンスを重視した診療を心がけ、屋根瓦方式のグループ診療を行い、診療の質の向上に努めている。院内では各専門科と相談しつつ多種多様な疾患に対応し、単独の専門科では対処できない患者のマネージメントを行っているが、開業医や地域の病院との密な連携を重視し、将来の地域医療の担い手の育成、真の総合内科専門医の養成を目指している。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

全人的医療マインドを持った医師

イ. 経験できる診療、技術

初診外来では、検診で指摘された異常への対処、原因不明の発熱や様々な主訴を持つ患者、各専門診療科に割り振りができない患者等の診療を行い、再診外来では入院時の受け持ち症例の退院後の診療等を行っている。

入院診療では、肺炎、尿路感染症、蜂窩織炎、感染性心内膜炎、化膿性脊椎炎、髄膜炎等の感染症、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等の血液疾患の化学療法、気胸、膿胸、間質性肺炎、肺癌等の呼吸器疾患、糖尿病患者の血糖コントロールなどを主に行っている。

また、敗血症性ショック等のICU管理が必要な重症患者も、救急集中治療科と協力して診療に当たっている。

上記の疾患以外にも希望する内科各専門科(脳神経内科、消化器科、循環器内科、呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科)を希望する期間ロテーションして各専門科の症例を経験することで、より幅広く様々な症例を経験できるように配慮している。

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日	
早朝	新入院, 入院予定症例カンファレンス						
午前	初診, 再診外来	初診, 再診外来	初診, 再診外来	初診外来	初診, 再診外来	病棟当番 休日救急入院 当番 講習会 学会	
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
午後	予約外来	予約外来	予約外来	病棟回診 京大血液内科 合同カンファレンス	予約外来		
	入院症例 総カンファレンス		★病棟 カンファレンス		入院症例 総カンファレンス		
時間外	★内科系合同 カンファレンス			病棟担当症例への対応, 夜間時間外オンコール, 救急外来当直			

★病棟カンファレンスは看護師, 薬剤師, MSWとのカンファレンスで、退院調整や今後の方針確認を行う。

4. 指導医・スタッフ

部長 **森 健太**
もり けんた
 大学卒業年 2005年卒

専門	循環器一般,総合内科,動脈硬化
認定	日本内科学会総合内科専門医・指導医,日本循環器学会専門医,日本病院総合診療医学会認定医,日本動脈硬化化学会専門医・評議員,臨床研修指導医

医長 **岡本 明日香**
おかもと あすか
 大学卒業年 2011年卒

専門	腎臓内科,透析
認定	日本内科学会総合内科専門医,日本腎臓学会専門医,日本透析医学会専門医,JMECC-インストラクター,ICLS-インストラクター,臨床研修指導医

医員 **箱田 きらり**
はこだ きらり
 大学卒業年 2021年卒

専門	内科一般
----	------

医員 **荒木 明日香**
あらか あすか
 大学卒業年 2022年卒

専門	内科一般
----	------

部長 **中治 仁志**
なかじ ひとし
 大学卒業年 2003年卒

博士(医学) 京都大学 2013年

専門	呼吸器一般,気管支喘息,慢性咳嗽
認定	日本内科学会総合内科専門医,日本呼吸器学会専門医・指導医,日本アレルギー学会専門医,日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医,日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医,日本医師会認定産業医,臨床研修指導医

医長 **森 美砂**
もり みさ
 大学卒業年 2016年卒

専門	内科一般
認定	日本専門医機構認定内科専門医,日本血液学会認定血液内科専門医

医員 **小倉 優花**
おくら ゆうか
 大学卒業年 2021年卒

専門	内科一般
----	------

指導医 **隈部 綾子**
くまべ あやこ
 大学卒業年 2008年卒

専門	内科一般
認定	日本内科学会総合内科専門医,日本感染症学会専門医,総合診療特任指導医,日本化学療法学会抗微生物療法認定医,ICD制度協議会認定医,臨床研修指導医

医員 **村上 雅博**
むらかみ まさひろ
 大学卒業年 2021年卒

専門	内科一般
----	------

医員 **阿野 悟士**
あの さとし
 大学卒業年 2021年卒

専門	内科一般
----	------

指導医 **水谷 直也**
みずたに なおや
 大学卒業年 2015年卒

専門	内科一般
認定	日本内科学会総合内科専門医,日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・プライマリ・ケア認定医・認定指導医,がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会終了,緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会終了,臨床研修指導医

医員 **山羽 峻平**
やまは しゅんぺい
 大学卒業年 2021年卒

専門	内科一般
----	------

医員 **貝原 希美**
かいばら のぞみ
 大学卒業年 2021年卒

専門	内科一般
----	------

5. 診療実績

入院症例

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
敗血症	14	17	8	29	19
菌血症	32	21	36	19	23
肺癌	54	39	14	13	3
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	22	8	2	2	3
心不全	21	24	10	20	16
肺炎	109	59	39	60	50
慢性閉塞性肺疾患	26	11	9	16	14
誤嚥性肺炎	44	53	47	70	73
間質性肺炎	17	12	19	10	4
気胸	23	26	17	16	4
急性腎盂腎炎	30	35	31	36	27
尿路感染症	37	18	15	21	41
その他	407	359	403	349	425
合計	836	682	650	661	702

6. 学会認定施設

日本内科学会教育関連施設

循環器内科

1. 循環器内科の理念・特色

当院の循環器内科は但馬地域の循環器疾患診療の拠点として、急性冠症候群、重症心不全などの救急疾患に重点をおいた診療を行っており、地域の重症患者が多数集まってくる。急性疾患や重篤な患者に対しては、救急科と連携して迅速な初期対応を行っている。虚血性心疾患、不整脈、心不全などの循環器疾患に対し、非侵襲的検査にて十分に評価を行った後に必要があれば侵襲的検査を行的確な診断・治療を行いたいと考えている。外科的治療が考慮される患者については心臓血管外科医と協力し合い適切な時期によりよい治療が受けられるよう協力して管理を行っている。また、急性心筋梗塞、急性心不全などで入院した患者の慢性期の予後改善を目指した心臓リハビリテーションにも多職種で協力して積極的に取り組んでいる。

研修医や若手循環器内科医の教育に関しては、循環器疾患全般の診断・治療や救急対応などの能力が確実に習得出来るようにスタッフ一同協力してあたっており、よりよい研鑽が得られるように環境整備に努めたいと考えている。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

数多くの循環器疾患の診断と治療を経験して、循環器疾患への専門的知識と治療手技を習得し、日本循環器学会認定循環器専門医の習得を目指す。積極的に学会発表を行い、論文作成を行える実力の養成を目指す。

イ. 経験できる診療、技術

但馬地域の中核病院であり、急性冠症候群を含めた救急疾患だけでなく、幅広い循環器疾患症例を研修することができる。心臓カテテル検査手技を習得後、急性冠症候群のカテテル治療を習得し毎日の救急対応に努めている。その他希望により、末梢血管治療、ペースメーカー手術、経食道心エコー等の得意分野の習得を行っている。

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
早朝	8:15~8:45 カンファレンス					
午前	9:00~12:00 心筋シンチ	9:00~ アンギオ	9:00~11:00 ペースメーカー手術 9:00~12:00 心筋シンチ	9:00~ アンギオ	9:00~11:00 経食道心エコー	
午後		アンギオ		アンギオ	13:00~16:00 トレッドミル負荷	
時間外		17:30~18:30 心臓リハビリ カンファレンス	18:00~19:00 内科カンファレンス	17:15~18:15 呼吸器・心臓血管外科 との合同カンファ レンス(月1回)		



4. 指導医・スタッフ

部長 **石田 明彦**
いしだ あきひこ
 大学卒業年 1996年卒
 博士(医学) 神戸大学 2004年

専門	循環器一般、不整脈
認定	日本循環器病学会専門医、日本内科学会総合内科専門医

医長 **山邊 健司**
やまべ けんじ
 大学卒業年 1996年卒

専門	循環器内科学、心臓リハビリ
認定	日本循環器病学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医・認定医制度研修医指導医、日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士、臨床研修指導医

医長 **石井 俊光**
いしい としみつ
 大学卒業年 2010年卒

専門	循環器一般
認定	日本内科学会認定内科医

医長 **藤田 紘**
ふじた ひろし
 大学卒業年 2014年卒

専門	循環器一般 循環器画像診断
認定	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会専門医

医員 **栗山 貴裕**
くりやま たかひろ
 大学卒業年 2020年卒

専門	循環器一般
----	-------

医員 **大野 奈都美**
おのの なつみ
 大学卒業年 2020年卒

専門	循環器一般
----	-------

指導医 **矢坂 義則**
やさか よしのり
 大学卒業年 1985年卒

専門	循環器一般、虚血性心疾患
認定	日本心血管インターベンション学会指導医

5. 診療設備

- ・ 心臓超音波装置 フィリップスジャパン EPIQ7
- ・ 心臓リハビリ室: 自転車エルゴメーター
- ・ 血管造影装置 フィリップスジャパン Azurion7 B12/12
- ・ 血管内超音波装置(IVUS) フィリップスジャパン S5 IVUS イメージングシステム
- ・ 320 列マルチスライスCT キヤノンメディカルシステムズ Aquilion One Vision EDITION
- ・ 1.5T 心臓MRI フィリップスジャパン Ingenia1.5
- ・ 心筋シンチ(QGS システム) 東芝メディカルシステムズ CAM Signature
- ・ 大動脈内バルーンポンプ(IABP) メラ コラートBP21
- ・ 経皮的心肺補助装置(PCPS) テルモ キャピオックス NEO



6. 診療実績(年間)

ペースメーカー手術件数

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
ペースメーカー移植術	29	36	45	32	29
ペースメーカー交換術	12	8	13	14	22

心臓カテーテル検査件数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
心臓カテーテル検査	234	311	332	301	295
経皮的冠動脈形成術	149	220	298	252	220
経皮的冠動脈ステント留置術	123	144	197	156	124

冠動脈形成術のうち緊急冠動脈形成術 約 100 件

2015 年より心臓リハビリテーションの設備を充実させ、施設基準をクリアし保険診療を開始

2024 年 1 月よりカテーテルアブレーション治療を開始

7. 学会認定施設

日本循環器学会専門医研修施設

日本心血管インターベンション学会研修施設



呼吸器内科

1. 呼吸器内科の理念・特色

- 豊岡病院呼吸器内科は兵庫県北部、京都府北部地域における呼吸器専門領域の診療を担っており、肺癌や間質性肺炎をはじめとする呼吸器専門疾患が地域の医療機関から紹介されてきている。
- 呼吸器内科の診療範囲は非常に広く、肺炎のように一般内科領域に近い疾患が多数存在する。当院では総合診療科と協力して診療しており、診療業務の負担の軽減だけでなく、呼吸器専門疾患以外の内科疾患も経験することが可能である。近年重要視されている Generalist としての臨床能力も向上させることができる環境である。
- 近年呼吸器内視鏡技術の進歩はめざましく、今後呼吸器内科専門医を目指す医師にとってこれらの経験は不可欠である。当院では EBUS-GS、EBUS-TBNA やクライオバイオプシー、EWS による気管支充填術や局所麻酔下胸腔鏡などを導入しており積極的に施行している。

2. 目標・プログラム

ア. 主な研修目標

- ・ 入院症例だけでなく初診を含めた外来も早期から担当する。
- ・ 胸部単純X線と胸部CTの画像診断
- ・ 胸水試験穿刺や気胸・胸水の胸腔ドレナージ
- ・ 肺癌の診断、治療計画を立て、実践する
- ・ びまん性肺疾患の診断、方針を立て、実践する
- ・ 肺炎・COPD 気管支喘息の入院と外来の管理
- ・ 気管支鏡及び超音波気管支内視鏡・局所麻酔下胸腔鏡を術者として行う
- ・ 積極的に学会発表を行う

イ. 研修内容

呼吸器外来: 初診外来毎週 1 回、再診外来毎週 1 回

気管支鏡検査: 肺癌に対する生検(EBUS-GS 含む)、EBUS-TBNA、BAL/TBLB、クライオバイオプシー、局所麻酔下胸腔鏡

学会発表: 症例報告以外にも臨床データ解析を行い学術集会へ発表する

当院研修後の進路: 当院に残留、もしくは京都大学呼吸器内科関連の病院などへの進路を相談

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土・日曜日/祝日
早朝	朝カンファレンス					病棟当番 もしくは 救急入院当番
午前	入院患者診療 救急外来オンコール	初診外来	呼吸器内視鏡当番	再診外来	呼吸器内視鏡当番	
午後			入院患者診療		入院患者診療	
		入院患者診療	16:00～ 外来症例 カンファレンス	入院患者診療		
時間外		16:00～ 入院症例 カンファレンス	17:30～ 内科系 カンファレンス	16:30～ 呼吸器内科・外科 カンファレンス	16:00～ 週末引継ぎ カンファレンス	

☆内科系合同カンファレンスは初期研修医からの症例発表、研修医向けのレクチャーを指導医の監修にて行う
 ※時間外のオンコールは内科もしくは総合診療科の当番となり、救急外来からの入院について初期診療及び主治医として対応する
 ※週間予定の一例です

4. 指導医・スタッフ

部長 **中治 仁志**
なかに ひとし
 大学卒業年 2003年卒
 博士(医学) 京都大学 2013年

専門 認定	呼吸器一般、気管支喘息、呼吸器内視鏡
	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医、日本医師会認定産業医、臨床研修指導医

医長 **三好 琴子**
みやし ことこ
 大学卒業年 2014年卒

専門	呼吸器一般
認定	日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会専門医、臨床研修指導医

医長 **金澤 史朗**
かなざわ しろう
 大学卒業年 2016年卒

専門	呼吸器一般、内科一般
認定	日本専門医機構認定内科専門医

医員 **平位 一廣**
ひらい かずひろ
 大学卒業年 2017年卒

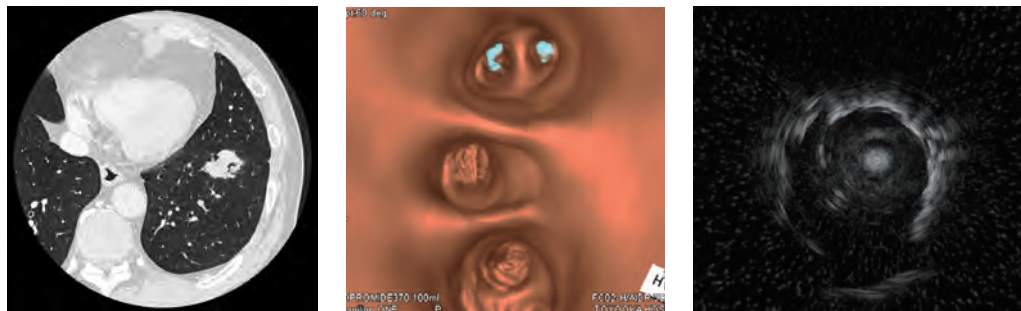
専門	呼吸器一般
認定	日本専門医機構認定内科専門医

5. 診療設備

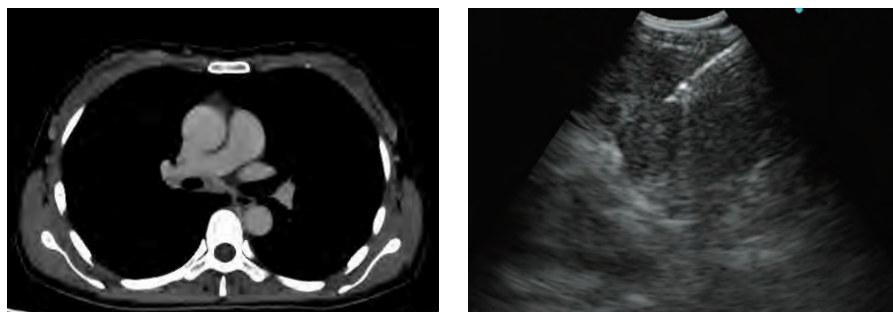
呼吸器内視鏡

通常の気管支内視鏡の他、EBUS-GS、EBUS-TBNA、クライオバイオプシー、EWS による気管支充填術、局所麻酔下胸腔鏡検査を導入済み。気管支鏡検査においては事前に撮影した胸部CTの画像データから仮想気管支鏡を作成し、Radial EBUSと併用することで病変部位の速やかな同定を試みている。検査は主に外来で施行しているが、前投薬に静脈麻酔などを用い検査中の患者の苦痛の緩和を試みている。局所麻酔下胸腔鏡は胸膜病変の診断以外に膿胸の隔壁搔爬にも用いている。

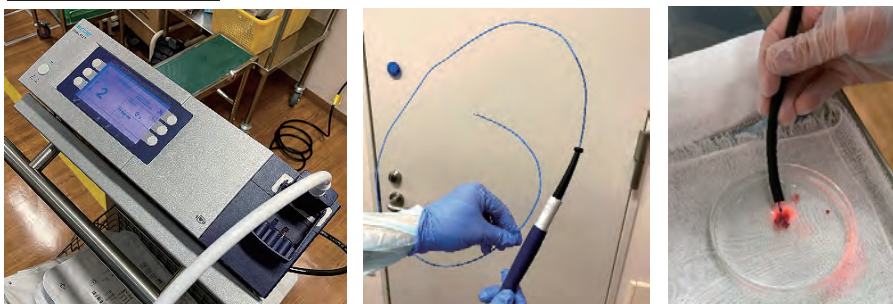
仮想気管支鏡・EBUS-GS 使用した TBLB



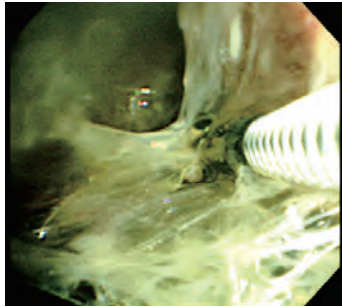
EBUS-TBNA



クライオバイオプシー

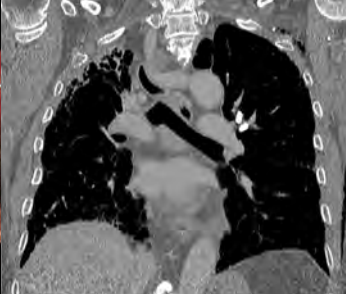


局所麻酔下胸腔鏡



クライオプローブによる胸膜生検

EWSによる気管支充填術



6. 診療実績

外来初診	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
腫瘍	189	178	203	201	206
びまん性肺疾患	45	47	60	62	90
喘息/COPD	42	51	50	45	67
感染症(抗酸菌含)	91	71	69	48	107
その他	108	101	108	126	166

呼吸器内視鏡	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
内視鏡総数	185	179	195	214	252
EBUS-TBNA	27	40	19	30	34
EBUS-GS	68	61	72	69	76
クライオバイオプシー	-	-	3	17	28
EWS	3	2	3	6	11
局所麻酔下胸腔鏡	11	14	9	10	10

7. 学会認定施設

日本内科学会教育関連施設

日本呼吸器学会認定施設

※呼吸器専門医プログラムは京都大学呼吸器内科の各関連病院のプログラムと連携している

日本アレルギー学会準認定施設

日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設

消化器科

1. 消化器科の理念・特色

消化器科は消化器疾患全般の診療にあたるとともに、但馬地域の癌拠点病院として、消化管・肝・胆・膵領域の様々な悪性疾患の診断・治療を行っている。また、但馬唯一の3次救急病院として、緊急疾患に対し24時間対応を行っている。

現在、スタッフは6名と少数であり、非常に激務ではあるが、全人的医療を目標に、科内および他科との連携をとりながら診療に当たっている。スタッフが少数であるが故に、必然的に受け持ち症例・処置症例は多くなり、そして関係する処置はとにかくやっていただくスタンスで指導に当たっている。

消化管

診断においては、NBI拡大内視鏡を頻用し、適応があれば積極的にESDを行っている。また緊急疾患としては、消化管出血に対する止血術、また手術不能消化管癌に対する消化管ステント留置を行い、患者様のQOL向上に努めている。

胆・膵

総胆管結石による胆管炎に対する緊急例が多い。また悪性疾患の診断、閉塞性黄疸に対する胆道ドレナージも積極的に行い、手術不能例に対してはステント留置、経乳頭的処置不能の場合はPTCDやEUSを用いた、ドレナージを積極的に行っている。

化学療法

あらゆる消化器悪性疾患の化学療法を行っている。

栄養療法

消化器科医師がNST委員長を務め、病院全体の栄養管理に関わっている。

2. 目標・プログラム

通常10～15名の入院患者を受け持ち全身管理、診断、治療を行う。診断に必要な検査および治療は主体的に行っていただく。特に治療に関しては、病気だけをみるのではなく、社会的背景なども加味し、全人的に方針を判断出来る能力を身に付けることを目標としている。

また、救急対応能力を身に付けるため、月に週1～2回程度のオンコールを上級医とともに行っていただく。

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
早朝	消化器カンファレンス					
午前	上部消化管内視鏡検査	入院患者診療	外来初診	上部消化管内視鏡検査	外来再診	
午後	下部消化管・胆膵内視鏡検査	下部消化管・胆膵内視鏡検査		入院診療	下部消化管・胆膵内視鏡検査	入院診療
時間外		消化器勉強会	内科合同カンファレンス			

4. 指導医・スタッフ

部長	やまだ たかひろ 山田 貴裕
大学卒業年	1992年卒
専門	消化管及び胆・膵領域、外科一般
認定	日本消化器外科学会認定医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本静脈経腸栄養学会TNT臨床研修指導医

医長	たけなか あつお 竹中 淳雄
大学卒業年	1996年卒
専門	消化器一般、内科一般
認定	日本内科学会認定内科医、日本静脈経腸栄養学会TNT

医長	はらだ たかのり 原田 威徳
大学卒業年	2010年卒
専門	消化器一般、内科一般
認定	日本内科学会認定内科医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医

医長	いけだ さやか 池田 彩
大学卒業年	2017年卒
専門	消化器一般
認定	日本専門医機構認定内科専門医

医員 黒内 光輝

大学卒業年 2021年卒

技術顧問 木村 利幸

大学卒業年 1987年卒

博士(医学) 京都大学 1998年

専門	消化器一般
----	-------

専門	消化器一般
認定	日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化管学会専門医、臨床研修指導医、京都大学医学部臨床教授

内科領域

5. 診療実績

		2020年	2021年	2022年	2023年
上部消化管	上部消化管内視鏡検査	2,709	2,918	2,647	2,520
	内視鏡的粘膜切除術(EMR)	17	10	14	20
	内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	55	62	44	33
	消化管ステント(食道)	11	11	9	8
	消化管ステント(胃・十二指腸)	24	15	14	14
	上部消化管止血術	67	79	80	82
	内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	68	39	35	45
下部消化管	下部消化管内視鏡検査	1,683	1,800	1,551	1,496
	内視鏡的粘膜切除術(EMR)	714	765	690	830
	内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	27	7	17	8
	大腸ステント	20	36	33	28
	下部消化管止血術	32	31	41	36
肝胆膵	胆管ステント留置術・乳頭括約筋切開術(EST)・乳頭拡張術(EPBD)	352	362	318	257
	超音波内視鏡(EUS/観察)	68	79	54	64
	超音波内視鏡(EUS/FNA)	66	44	52	58
	超音波内視鏡(EUS/ドレナージ)	12	34	27	34
	経皮経肝胆道ドレナージ術(PTCD)	6	4	3	1
	経皮経肝胆膵ドレナージ術(PTGBD)	20	41	20	38
肝動脈化学塞栓療法(TACE)	23	21	27	19	
小腸	カプセル内視鏡	12	18	6	3
その他	CVポート	20	33	21	21

6. 学会認定施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器病学会認定施設



内分泌・糖尿病内科

1. 内分泌・糖尿病内科の理念・特色

理念：診療にあたっては下記の点を重要視している。

- ・病態にあわせた適切な治療方法の選択
- ・血糖変動に配慮したきめ細やかな診療
- ・糖尿病および合併症の早期診断と早期治療介入
- ・健康寿命と生活の質を考えた全人的かつ総合的な診療
- ・多職種共同で取り組む自己効力感の醸成と自己管理行動の支援
- ・地域・家庭・職場における重症化予防
- ・地域で取り組む糖尿病重症化予防

当院の立地する地域には、未だ適切な治療や指導を受けられずに管理不良の状態の方々が多くおられるため、患者診療に熱心に取り組むことで地域医療に貢献していることが実感されるやりがいのある環境である。若手医師の臨床研修の場として最適の環境と考えている。

特色：公立豊岡病院は地域の診療中核拠点であるため、多様な症例が豊富に集まることがその特色である。糖尿病に関しては研修中に、1型糖尿病、2型糖尿病、その他特定の機序・疾患によるもの、妊娠糖尿病の各症例を経験できる。

また、高血糖・低血糖など救急症例、手術症例や合併症・併存症を有する症例が多く、幅広い症例を研修可能である。

さらに、妊婦、小児から、働き盛り、高齢者、在宅、終末期まで、ライフステージにあわせた管理が経験できる。

内分泌に関しては、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患などの診療を通じて幅広い研修ができる。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

当科での研修において目標とする医師像は下記のとおりである

- ・個々人の病態、合併症、ライフスタイル、健康信念、サポート状況の把握に基づききめ細やかな診療ができる医師
- ・患者個人を取り巻く家族・社会・職場・地域・利用できる医療資源を含めた最適な治療方法を考案できる医師
- ・将来のリスク予測に基づいて早期予防・治療介入ができる医師
- ・患者を中心とした多職種チーム医療連携のリーダーとなれる医師
- ・診療、指導、研究、啓発を通じて自身も成長していける人間力を備えた医師

イ. 経験できる診療、技術

診療は、糖尿病、内分泌、肥満、高血圧、脂質異常症の専門診療を行っている。その内容は下記のとおりである。

糖尿病

糖尿病診療に関しては、専門治療を行うとともに、早期の診断と治療により糖尿病合併症発症予防や進展阻止に努めている。糖尿病教育入院コースをクリニカル・パスに沿って行い、血糖コントロール改善と共に、合併症の積極的検索を行っている。また、食事負荷試験やグルカゴン負荷試験などからインスリン分泌能とインスリン抵抗性の病態を診断し、病態にあわせた適切な治療選択に努めている。1型糖尿病においては、必要に応じて24時間血糖モニタリングによる食後高血糖、夜間低血糖、暁現象やソモジー効果の判定を行いより血糖変動に配慮したきめ細やかな診療を心がけている。必要な場合はインスリンポンプを導入している。また、妊娠糖尿病についても産科と連携して診療をしている。

内分泌疾患

甲状腺については、バセドウ病、破壊性甲状腺炎、橋本病などの診療をしている。結節性病変に対しては甲状腺エコーの結果により、耳鼻科紹介または甲状腺専門病院と連携して診療を行っている。副腎については、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症などの診療を行っている。必要な場合は放射線科と連携して副腎静脈サンプリングを行い、また、副腎偶発腫瘍に関しても泌尿器科と連携して診療をしている。

肥満症

2次性の精査とともに肥満に伴う考え方の“ずれ”と日常生活の“くせ”を明らかにして自己管理行動に結びつけるべく多職種での指導を行っている。また、糖尿病合併患者に対しては肥満を助長させない糖尿病薬の選択と低血糖の早期発見・予防を中心に診療している。うつ病や双極性障害など精神心理的側面が基礎にある場合には適宜精神科と協調して診療を進めている。また、睡眠時無呼吸症候群においても神経内科、呼吸器内科と連携して診療している。

高血圧

難治性高血圧や2次性高血圧の診断と治療を行っている。また、塩分やカロリー摂取推定量に基づいて減塩や肥満の解消など生活習慣指導を強化している。

脂質異常症

高コレステロール血症や高中性脂肪血症に関して診療している。動脈硬化・ハイリスクの原発性高脂血症患者の診療を行っている。

他科・他職種連携

総合診療科・眼科・循環器内科・神経内科・胸部・心臓血管外科・皮膚科・歯科口腔外科・精神科等と協力して、糖尿病網膜症、腎症、神経障害、壊疽、歯周病などの糖尿病合併症や、虚血性心疾患、脳血管障害、末梢動脈閉塞症などの動脈硬化性疾患に対して、全人的かつ総合的な診療を心がけている。また、看護師・栄養士・薬剤師・検査技師など多職種のチームによる自己管理行動の継続的サポートや活気ある糖尿病教室を企画している。

糖尿病地域連携

糖尿病は地域で診療することが重要でありすべての糖尿病患者さんにかかりつけ医をもっていただき地域病診連携で診療することを目指している。また、医師会や行政と連携して地域における糖尿病発症および重症化予防のための連携体制構築に努力している。

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
午前	外来・入院		外来・入院・術期 血糖管理		外来・入院 \$健診・地域医療 フットケア外来	
午後	講義 (内分泌・糖尿病・高血 圧・脂質異常症・肥満) 教育入院症例多職種 カンファレンス	外来・入院・初診 診察・他科コンサルト	・症例 ・臨床研究 ・内科合同 ・教育入院症例多職種 カンファレンス	外来・入院・初診 診察・他科コンサルト	糖尿病透析予防外来	

*: 関連症例を受け持っている場合

\$: 希望者のみ

4. 指導医・スタッフ

院長補佐 兼部長 岸本 一郎 大学卒業年 1988年卒 博士(医学) 京都大学 1994年	医長 和田 里美 大学卒業年 2010年卒	医員 小倉 優花 大学卒業年 2021年卒	顧問 恒成 徹 大学卒業年 1979年卒 博士(医学) 神戸大学 1991年
専門 糖尿病,内分泌,高血圧 認定 日本糖尿病学会専門医・指導医・評議員,日本内科学会総合内科専門医・指導医・近畿支部評議員,日本高血圧学会専門医・指導医・評議員,日本内分泌学会評議員,日本肥満学会評議員,日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医,日本循環器学会専門医,日本専門医機構認定総合診療専門医,総合診療特任指導医,京都大学医学部講師(非常勤),臨床研修指導医	専門 糖尿病,代謝・内分泌内科 認定 日本内科学会認定内科医,日本糖尿病学会専門医,日本内分泌学会内分泌代謝科専門医,日本静脈経腸栄養学会TNT,臨床研修指導医	専門 内科一般	専門 内分泌代謝 認定 日本内科学会総合内科専門医,日本医師会認定産業医,日本内分泌学会内分泌代謝科専門医,臨床研修指導医

5. 診療設備・診療方法等

- ・ 超音波検査(頸動脈、甲状腺、心臓、下肢血管)
- ・ 核医学検査(甲状腺、副腎)
- ・ X線CT、MRI検査
- ・ 骨塩定量(DXA)
- ・ 持続血糖モニタリング
- ・ 持続インスリン皮下注入療法
- ・ 糖尿病透析予防外来
- ・ 教育入院クリティカルパス など

6. 診療実績

糖尿病患者数 約 1,500 名

初診患者数 10 名/週 程度

外来患者数 200 名/週 程度

高血糖・低血糖緊急症例 数名/週

新規妊娠糖尿病 数名/週

SAP 症例 数名

持続血糖モニタリング症例 数名/週

内分泌初診 数名/週

周術期血糖管理 数名/週

7. 学会認定施設

内科学会認定教育施設

糖尿病学会認定教育施設 I

高血圧学会認定教育施設



脳神経内科

1. 脳神経内科の理念・特色

公立豊岡病院は兵庫県北部・但馬地方という広範囲の地域の医療を担う中核的病院です。その中で脳神経内科を有する病院は2カ所しかないため、この地域の脳卒中をはじめとして、神経難病を含む神経筋疾患患者が集中することとなっております。このため当院脳神経内科は症例数が豊富であることを特徴とします。

現在5人の常勤脳神経内科医と1人の非常勤脳神経内科医で、常時40人前後の入院患者および平均50人/日の外来患者の診療を行っている。特に脳梗塞超急性期治療である血栓溶解療法に精力的に取り組んでおり、ドクターヘリを有する当院救急集中治療科と連携して、「1人でも多くの人に」をスローガンに24時間対応できる体制で臨んでいる。

また、脳神経外科と共同連携して血管内治療を積極的に行っています。それに加え救急隊をはじめ、関係する医療関係者、住民への啓蒙活動にも取り組んでいる。

但馬地方は兵庫県の中でも筋萎縮性側索硬化症や脊髄小脳変性症などの神経難病が多い地域です。そのため診療のみならず、訪問診療、啓蒙活動など地域と連携した広範な脳神経内科医療を展開している。

更に、リハビリテーションにも精力的に取り組んでおり、ボトックス療法、足こぎ車いすやTENSを導入して神経リハビリテーションを実践している。また、脳卒中、認知症や心疾患等に対して予防的観点から睡眠時無呼吸症候群の診断治療にも取り組んでいる。

2. 目標・プログラム

ア. 目標

新・内科専門医制度で経験が必要な70疾患群のうち神経内科分野は9疾患群を占めていますが、当院脳神経内科ではほぼ全分野をカバーしている。したがって、専攻医は当科ローテーション期間に概ね必要疾患群症例を経験していただけます。

また、当科では重症患者も多いため、密度の濃い研修ができます。当科での研修を通して、新内科専門医として脳神経内科診療が行えるレベルに到達していただきたい。

イ. 経験できる診療、技術

- ・ 専攻医は入院患者の主治医となり、指導医の指導のもと病棟業務を行う。また、指導医のもと初診外来を担当する。
- ・ 神経学的症候や病態の意味を正しく理解し、適切な神経学的所見をとることができるように指導する。
- ・ 神経生理、神経放射線、神経超音波をはじめ、各種神経学的検査結果の意味・解釈や治療の内容を理解出来るように指導します。指導医のもと髄液検査、神経伝導速度検査、血管エコー、脳波検査は自ら施行し、適切な判断を下すことが出来るように指導する。
- ・ 入院患者の主治医として、適切な確定診断を行い、治療計画を立案し適切な診療録が作成できるように指導する。
- ・ 脳神経内科救急をはじめ迅速な対応が必要な症例については、指導医とともに診療を行い、神経救急疾患の診察の仕方、処置の仕方を学び、実践できるように指導する。
- ・ 超急性期脳血管障害については指導医と共に血栓溶解療法を経験する。また、脳神経外科の指導のもと血管内治療(見学)を経験する。
- ・ 理学・作業・言語療法に加え、TENなどを用いた神経リハビリテーションを学ぶ。



足こぎ車椅

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
午前	新入院患者症例カンファレンス 外来診療 病棟診療	新入院患者症例カンファレンス 外来診療 病棟診療	新入院患者症例カンファレンス 外来診療 病棟診療	新入院患者症例カンファレンス 外来診療 病棟診療 地域医療訪問診療	新入院患者症例カンファレンス 外来診療 病棟診療	要時対応 (救急入院患者)
午後	外 来 病棟回診	外 来 病棟回診	外 来 病棟回診	外 来 病棟回診 神経生理検査 (筋電図、神経伝達 速度検査 など) 抄読会	外 来 病棟回診	
時間外		病棟総回診	18:00～ 内科合同 カンファレンス	17:15～(隔週) リハビリテーション科 との合同カンファレンス	症例カンファレンス	

4. 指導医・スタッフ

部長 ^{まつしま かずし} 松島 一士

大学卒業年 1983年卒

博士(医学) 東海大学 2000年

専門	神経疾患一般、脳血管障害、睡眠時無呼吸症候群
認定	日本神経学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医・評議員、日本内科学会認定内科医

医長 ^{よこて あきよし} 横手 明義

大学卒業年 2008年卒

専門	神経疾患一般、脳血管障害
認定	日本専門医機構認定脳神経外科専門医、臨床研修指導医

医長 ^{いが けんいち} 伊賀 賢一

大学卒業年 2012年卒

専門	神経疾患一般
認定	日本神経学会専門医、日本内科学会認定内科医、臨床研修指導医

医長 ^{まつだ あきひろ} 松田 明宏

大学卒業年 2017年卒

専門	神経疾患一般
----	--------

医員 ^{いとう ひろき} 伊藤 大樹

大学卒業年 2019年卒

専門	神経疾患一般
----	--------

医員 ^{やすかわ なおゆき} 安川 直征

大学卒業年 2021年卒

専門	神経疾患一般
----	--------

5. 診療設備等

- ・ ポータブル脳波計 2台(長時間持続モニター・ビデオカメラ) 日本光電 EEG-1250
- ・ 筋電計 ネイタス バイキングクエスト 2台
- ・ 誘発脳波検査器 日本光電 ニューロパック S1
- ・ 頸動脈超音波診断装置 キヤノンメディカルシステムズ Aplio i800
- ・ ポリスロムグラフィ検査装置 フィリップス・レスピロニクス アリス 6LDxS
- ・ 3TMRI 装置 フィリップスジャパン Ingenia3.0



6. 診療実績

1年間の神経内科疾患の統計

初診外来患者数 628 人/年

新規入院患者数 634 人/年

再診外来患者数 13,416 人/年

平均在院日数 28.0 日

疾患名	入院患者数	疾患名	入院患者数
脳梗塞・TIA	267人	変性疾患	37人
脳出血・その他の血管障害	105人	認知症疾患	6人
感染症・炎症性疾患	6人	発作性・機能的疾患	4人
中枢性脱髄疾患	1人	自律神経疾患	8人
免疫性末梢神経疾患	3人	脊椎・脊髄疾患	7人
免疫性筋疾患	0人	腫瘍性疾患	2人
末梢神経疾患	8人	代謝性疾患	8人
筋疾患	9人	Medical neurology・その他	102人

(2023年)

7. 学会認定施設

日本神経学会専門医制度教育施設

日本脳卒中学会認定研修教育施設

専攻医の声

脳神経内科で専門研修3年目の専攻医です。当院で初期臨床研修後に、京大病院で1年間研修し、再び当院で専門研修をさせて頂いております。

当院は各種メディアでご存じの通り救急科のドクターヘリ活動が盛んであり、神経救急を多く対応することができます。発症して迅速にヘリ搬送されることから、tPA 件数も多く、難治性てんかんの治療にも携わることができます。また、当地方では神経変性疾患も人口あたりでは多く、変性疾患の診断と治療に積極的に携わることができます。さらに当院は北近畿での基幹病院であり、筋疾患なども含めて北近畿一円の稀少症例も集まり、非常に勉強になる場所です。

当院神経内科では脳卒中予防の為、睡眠時無呼吸症候群の治療を積極的に行っており、ポリソムノグラフィ精査入院も盛んに行い、予防医学にも携わることができます。

当地には城崎温泉があり、古くより近畿貴顕の憩いの場となっております。空を見上げると、運が良ければコウノトリが飛来しているのを見ることができます。このようなのどかな環境で、十分な研修できる当院での研修はいかがでしょう。お待ちしております。

専攻医 Mさん

8. 基幹プログラム

公立豊岡病院内科専門研修プログラム

内科・Subspecialty並行研修コース(4年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	豊岡病院か連携施設のいずれか											
	Subspecialty 選択科											
	内科専門研修											
	初診+再診外来週に1回担当											
2年目	豊岡病院か連携施設のいずれか											
	Subspecialty 選択科											
	内科専門研修											
	初診+再診外来週に1回担当											
<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡病院では総合診療科と希望診療科に所属し、内科専門研修とサブスペシャリティの連動研修を行う。 ・病歴要約を最低20例作成する。 ・JMECCを原則として1～2年目の間に受講。 ・連携施設研修は、所属の診療科と相談のうえ決定する。 ・2年目修了までに必要となる56疾患群160症例を経験し登録、必要な29症例すべてを作成し、登録する。 												
3年目	豊岡病院か連携施設のいずれか											
	Subspecialty 選択科											
	内科専門研修											
	初診+再診外来週に1回担当											
4年目	豊岡病院か連携施設のいずれか											
	Subspecialty 選択科											
	内科専門研修											
	内科専門医取得のための病歴提出準備											
<ul style="list-style-type: none"> ・学会発表・論文作成及び剖検を実施。 ・希望診療科に所属し、56疾患群160症例を経験し登録、症例指導医の指導を得て病歴要約の再提出を行う。 ・サブスペシャリティを主体とした研修を行う。 ・その他、不足症例の経験。連携施設で研修を希望する場合はメンターによる推薦に基づき、管理委員会の決定に基づき実施するものとする。 												
【ローテーションの方式】 <ul style="list-style-type: none"> ・専攻医の希望診療科をもとにメンターを決定。 ・4年間Subspecialty専門研修と内科専門研修を並行して行う方式です。 <p>豊岡病院又は連携施設(京都大学、京都医療センター、京都桂病院、近畿大学、北野病院、大阪赤十字病院、済生会中津病院、大阪市立総合医療センター、神戸大学、神戸市立医療センター中央市民病院、県立尼崎総合医療センター、県立はりま姫路総合医療センター、神鋼記念病院、八鹿病院、天理よろづ相談所病院、日本赤十字社和歌山医療センター (特別連携施設: 出石医療センター、朝来医療センター、日高クリニック、村岡病院、香住病院、浜坂病院))において研修します。連携施設では原則1年以上研修します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡病院内科系6診療科は総合診療科、循環器内科、呼吸器内科、消化器科、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科からなり、選択するSubspecialty科と並行して幅広い内科を希望選択科として研修します。 その間Subspecialty科の当直を週1回行っていただきます。 												
【連携施設での研修】 <ul style="list-style-type: none"> ・連携施設の規模や指導体制、僻地医療、地域中核病院、終末期医療などの位置付けと専攻医の希望に合わせ、Subspecialty分野と並行して幅広い内科研修を行います。 												

プログラム・資料に関する問い合わせ先

TEL 0796-22-6111(代表)

FAX 0796-22-0170

e-mail kensyucenter@toyookahp-kumiai.or.jp

website <http://www.toyookahp-kumiai.or.jp/toyooka/>

〒668-8501 兵庫県豊岡市戸牧1094 公立豊岡病院組合 人材育成・研修支援センター